

在住外国人へのアンケート調査結果  
平成 12 年 3 月

福島県国際課

## 在住外国人アンケートの結果概要

平成12年3月、福島県内に住む外国人に対しアンケート調査を実施した。市町村に外国人登録している人のなかから無作為に選んだ成人500人に、日本語、英語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語で書かれた質問票のセットを送り、145人から回答を得た。回答率は29%だった。

### 回答者の姿

回答者数 145人、 男56人(39%)、女89人(61%)

#### 年齢

年齢	人数
20-30歳	40
30-40歳	57
40-50歳	27
50-60歳	12
60-70歳	5
70-歳	4
計	145

#### 国籍

国籍	人数
中国	37
韓国・朝鮮	24
フィリピン	22
ブラジル	11
オーストラリア	7
イギリス	7
アメリカ	6
カナダ	3
タイ	3
マレーシア	3
ロシア	2
アゼルバイジャン	2
パラグアイ	1
ニュージーランド	1
アイルランド	1
インドネシア	1
ベトナム	1
ポリネシア	1
ルウエー	1
アルゼンチン	1
ネパール	1
チュニジア	1
リ	1
ラオス	1
ベルー	1
ベネズエラ	1
不明	4
計	145

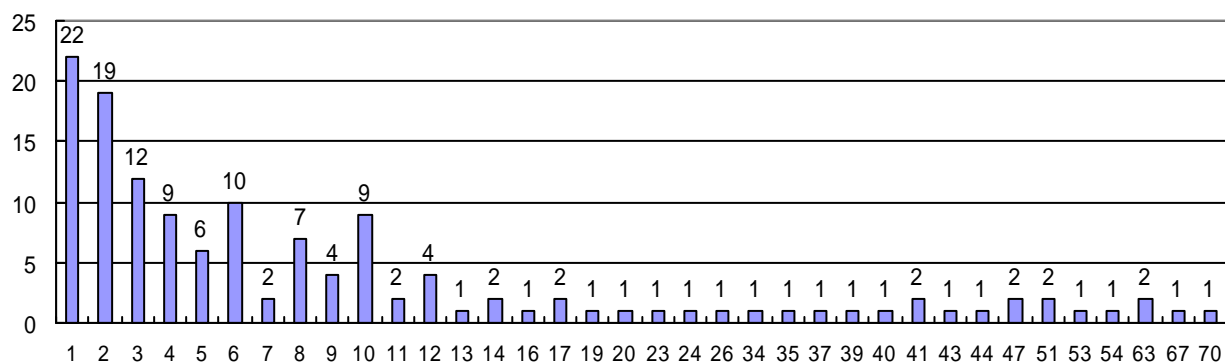
#### 母語

母語	人数
中国	30
英語	26
タガログ	14
ポルトガル	11
朝鮮	11
日本	8
ヒンディー	4
ロシア	3
タイ	3
スペイン	3
ベトナム	2
インドネシア	1
ルウエー	1
ネパール	1
アラビア	1
ラオス	1
台湾	1
マレー	1
不明	23
計	145

#### 住所地

地域	回答者数	構成比
県北	44	33.6%
県中	29	22.1%
県南	8	6.1%
会津	16	12.2%
南会津	3	2.3%
相双	15	11.5%
いわき	16	12.2%
計	131	
不明	14	

### 日本での通算滞在年数



滞日 10 年以下の人の国籍別割合

	滞日10年 以下	滞日10年 超	無回答	各国籍の 全回答者 数	滞在10年 超の割合
中国	33	2	2	37	5%
韓国朝鮮	2	21	1	24	88%
フィリピン	19	2	1	22	9%
ブラジル	9	1	1	11	9%
その他	37	10	4	51	20%
計	100	36	9	145	25%

国籍別の永住予定者の割合

国籍	永住	非永住	不明	計	永住 予定 割合
アメリカ		6		6	0%
イギリス	1	6		7	14%
オーストラリア	2	5		7	29%
フィリピン	19	3		22	86%
ブラジル	5	6		11	45%
中国	30	6	1	37	81%
韓国	23	1		24	96%
他	15	14	2	31	48%
計	95	47	3	145	66%

職業

	人数
a) 農業、漁業、林業	3
b) 製造業	20
c) 建設業、卸小売業、飲食業、運輸業、不動産業、電気、ガス、水道	14
d) 金融保険、情報通信、教育、医療、公務	22
e) 主婦	41
f) 学生	5
g) 研修生研修員	5
h) その他	24
i) 無職	10
不明	1

性別・年齢・国籍・職業

回答者 145 人のうち、女性が 6 割を占めたが、県内の実際の外国人登録者数の男女比も 4 対 6 の割合であるので、これは実態を反映した男女比である。年齢は、最高 79 歳、最低 20 歳、平均が 37 歳であった。回答者の国籍を見ると、中国、フィリピン、韓国朝鮮、ブラジルが多いが、現実の外国人登録数ではこの 4 カ国の登録はさらに多く、県内の外国人登録の 82% をこの 4 国が占める。回答者の国籍別割合と外国人登録者の国籍別割合を比べると下の表のようになる。

フィリピンについては、タガログ語やビサヤ語のアンケートを同封しなかったことが回答者を少なくした。職業別では、主婦が多い。

	回答者数	各国籍が全回答者に占める割合	H11 外国人登録の国籍別の割合
中国	37	25.5%	27%
韓国・朝鮮	24	16.6%	21%
フィリピン	22	15.2%	22%
ブラジル	11	7.6%	13%

#### 母語

中国籍 37 人中、母語を韓国朝鮮語とした人が 2 人、中国語と並べて韓国朝鮮語とした人が 2 人いた。本県に滞在する中国人に吉林省出身者の朝鮮族が多いことを反映している。韓国朝鮮籍 24 人の母語は日本語、韓国朝鮮語、不明に三等分された。多くの韓国朝鮮籍回答者が特別永住者であるため、母語として何を挙げるべきか迷うためであろう。フィリピン籍はタガログ語 12 人、ビサヤ語 4 人、フィリピン語 2 人(その真意不明。下の表ではタガログ語に分類した。)、英語 1 人、不明 3 人に分かれた。

#### 滞日年数

日本での通算滞在年数(1年未満を切上)を見ると、滞日 10 年を超える人の多くが韓国朝鮮籍で、中国、フィリピン、ブラジルは滞日 10 年を超える人が回答者全体の 1 割に満たない。

Q2 あなたの日常生活で困ったことについてお尋ねします。  
(1) 日常生活上、何について困ることが多いですか。いくつでも をつけてください。

	回答数	全回答者のうち各項目を選択した割合
a) 日本の生活習慣がわからない	34	23%
b) 公共サービスの利用法がわからない	41	28%
c) 病気のとき言葉が通じない	36	25%
d) 職場での問題	16	11%
e) 子供の教育	24	17%
f) 友人が少ない	33	23%
g) 日本人家族との関係	20	14%
h) 特に困ることはない	48	33%
i) その他	12	8%

3 分の 1 の人(48 人)は特に困ることはないと応えている。このうち 28 人は 10 年超日本に住んでいる人であったが、滞日 10 年以下の人でも 20 人は特に困ることはないと答えている(中国籍 7 人、ブラジル籍 4 人、フィリピン籍 3 人など)。

残り 3 分の 2 の人のうち、選択が最も多いのが「公共サービスの利用法がわからない」次いで「病気のとき言葉が通じない」であった。

(2) 困ったとき誰に相談しますか。いくつでも をつけてください。

	全 体	割合	中国	韓 国 朝 鮮	ブラ ジル	フィ リ ピ ン
a) 日本人の友人	61	42%	9	9	5	9
b) 同国人の友人	59	41%	16	4	4	13
c) 家族	76	52%	25	13	3	9
d) 大使館・領事館	3	2%	0	0	0	1
e) 役所の窓口	14	10%	3	1	0	2
f) 職場や学校の人	21	14%	4	0	3	1
g) 誰もいない	5	3%	4	1	0	0
h) その他	9	6%	3	1	2	0

困ったときに誰に相談するかとの問いに対しては、上のような結果になった。サンプル数が少なすぎる嫌いがあるが、注目すべき点は、

- 相談相手が「誰もいない」と答えた5人のうち4人が中国籍であること。
- 中国と韓国朝鮮は家族に相談する人の割合が高いこと。
- 同国人の友人に相談する割合が高いのはフィリピン籍の人であり、次いで、ブラジルと中国であること。
- ブラジル籍の人は職場や学校の人に相談する割合が高いこと。

Q3 在住外国人のみなさんの人とのネットワークについてうかがいます。日常生活についてどこから情報を得ているかを知るためです。

(1) 日本人の友人がいますか。 いる / いない

「いる」と答えた方：何人ぐらいいますか。 \_\_\_\_\_人

	回答者数
いない	25人
1-2人	9人
3-5人	46人
6-10人	23人
10人超	34人
計	137人
無回答	8人

各国籍別の回答者のうち、日本人の友人がいないと答えた人の割合

中国	39%
ブラジル	30%
フィリピン	18%
韓国朝鮮	4%

日本人の友人については、いないと答えた人が25人いる。日本人の友人がいないと答えた人

を国籍別に見ると、中国籍、ブラジル籍、フィリピン籍が多く、例えば中国籍では回答者の39%が日本人の友人はいないと答えており、これら3カ国籍の人は日本人社会から孤立ぎみといえる。これに対して、米英豪加などの欧米系籍では日本人の友人がいないと答えた人は皆無である。日本人の欧米人覇層がこの統計結果に現れているといえるのではないか。

(2) 母国人の友人がいますか。 いる / いない

「いる」と答えた方：何人ぐらいいますか。 \_\_\_\_\_人

母国人の友人は何人いますか。

いない	19人
1-2人	32人
3-5人	34人
6-10人	25人
10人超	27人
計	137人
無回答	8人

各国籍別の回答者のうち、母国人の友人がいないと応えた人の割合

中国	9%
ブラジル	10%
フィリピン	9%
韓国朝鮮	24%

母国人の友人がいますかという質問に対しては、19人がいないと答えている。その多くが、そもそも登録外国人の少ないベトナムなどの少数派国籍の人で占められている。中国、ブラジル、フィリピン籍など県内在住者の多い国籍で母国人の友人がいないと答えた人は10%以下である。

韓国朝鮮籍の場合は、日本人の友人がいないと答えた人が4%であるのに対し、母国人の友人がいないと答えた人が24%と多い。これは、韓国朝鮮籍の多くが特別永住者であり、日本人同様に暮しているからであろう。

(3) 隣近所との付き合いはありますか。ある / ない

隣近所との付き合いはある	79
ない	58
計	137

隣近所との付き合いの「ある」 / 「なし」と滞日年数の分類集計

	あると回答した人数	ないと回答した人数	計
滞日10年以下	55	48	103
滞日10年超	24	10	34
総計	79	58	137

国籍別の集計

	隣近所との付き合いはある	ない	計(人)
中国	22	12	34
韓国朝鮮	19	4	23
フィリピン	11	10	21
ブラジル	4	7	11
その他	23	25	48
計	79	58	137

隣近所との付き合いについては、137 の回答があった。滞日 10 年以下の層でみると、半分強の 55 人が隣近所との付き合いがあると答えている。滞日 10 年以下では約半数が隣近所との付き合いが「ない」と答えている。滞日 10 年超の人でも 3 分の 1 以上が「ない」と答えている。国籍別では、ブラジル籍の人が「ない」と答えた率が高い。

(4) どのようなグループに属していますか。いくつでも をつけてください。

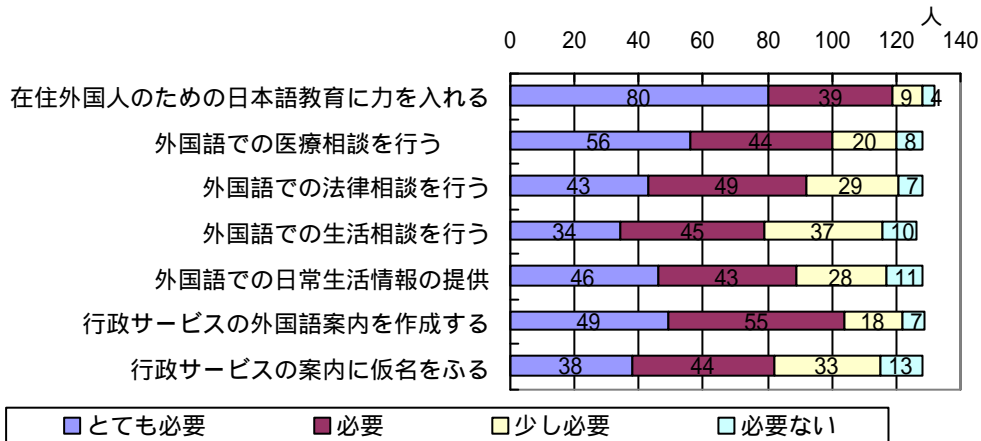
- a) 母国人のグループ
- b) 地域の国際交流団体
- c) 日本語を学ぶグループ
- d) 教会・宗教団体

	母国人グループ	地域の国際交流団体	日本語を学ぶグループ	教会・宗教団体
中国	35%	27%	27%	0%
韓国朝鮮	21%	4%	0%	8%
フィリピン	36%	9%	14%	14%
ブラジル	27%	18%	9%	9%
欧米英語諸国	4%	24%	20%	12%
全体	26%	19%	16%	10%

どのようなグループに属していますかと問うたところ、下のような結果となった。中国籍の人は教会を除く各グループへの所属率が高い。中国、フィリピン、ブラジルの3国は母国人グループへの所属率が高い。特に、フィリピン・ブラジル籍は、母国人グループへの所属率が他のグループへの所属率に比べて高い。欧米英語諸国で集計したところ、母国人グループへの所属率が低かったが、英語圏出身者は「英語」を母国語とする諸国人との情報交換が可能で、「母国」という基準で括る意義がないからであろう。

Q4 下に掲げられたことは、在住外国人のみなさんが日本ででの生活に適応するのを支援するために行政がすべきこととして、必要だと思いますか。をつけてください。

各項目と回答者数(人)	とても必要	必要	少し必要	必要ない
A) 在住外国人のための日本語教育に力を入れる	80	39	9	4
B) 外国語での医療相談を行う	56	44	20	8
C) 外国語での法律相談を行う	43	49	29	7
D) 外国語での生活相談を行う	34	45	37	10
E) 外国語での日常生活情報の提供	46	43	28	11
F) 行政サービスの外国語案内を作成する	49	55	18	7
G) 行政サービスの案内に仮名をふる	38	44	33	13



日本語教育への需要が特に高い。それ以下は僅差ではあるが、行政サービスの外国語案内や外国語での医療相談に対する需要が高かった。滞日年数が長くなるにつれて日本語教育を必要とする意見が少なくなるのかどうか調べたところ、日本語教育を支持する意見は滞在1年から4年の人に多いものの、滞日年数の長い人でも必要とする意見が多かった。次の表は、「とても必要」を9点、「必要」を6点、「少し必要」を3点、「必要ない」を0点として計算し、全員が9点満点をつけた場合を100%とし、「在住外国人への日本語教育」が何%の得点を得たか、滞日年数ごとに示したものである。

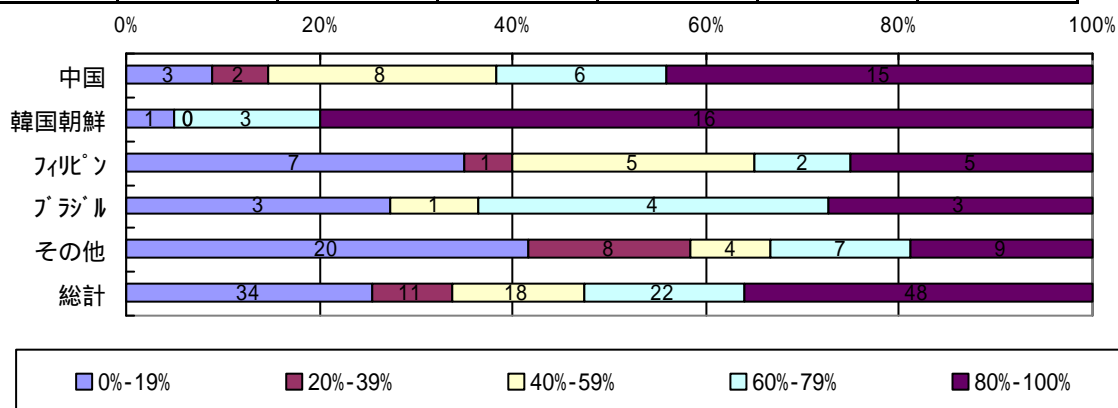
滞日年数	人数	得点
1	22	89%
2	19	79%
3	12	89%
4	9	81%
5	6	67%
6	10	63%
7	2	67%
8	7	71%
9	4	83%
10	9	74%



Q10 あなたはこのアンケートの日本語版に使われている日本語を読んで、全体の何パーセント(%)くらい理解することができますか。

0%-19% / 20%-39% / 40%-59% / 60%-79% / 80%-100%

	0%-19%	20%-39%	40%-59%	60%-79%	80%-100%	計
中国	3	2	8	6	15	34
韓国朝鮮	1	0	0	3	16	38
フィリピン	7	1	5	2	5	20
ブラジル	3		1	4	3	11
その他	20	8	4	7	9	30
総計	34	11	18	22	48	133



アンケートに書かれているふり仮名付きの日本語を読んで理解できるかという質問を設けた。133人が回答した。日本育ちの人が多い韓国朝鮮は別格として、日系人が多い南米籍、漢字を理解しやすい中国籍で日本語を理解する人が多い。

0%-19%を1点、20%-39%を2点、40%-59%を3点、60%-79%を4点、80%-100%を5点として、滞日年数や国籍で得点の傾向を調べた。

国籍と日本語能力

国籍	回答者数	平均得点
中国	34	3.8
韓国朝鮮	20	4.7
アメリカ	6	2.0
フィリピン	20	2.9
ブラジル	11	3.4
ペネア	1	5.0
ペル	1	2.0
ポビア	1	2.0
アルゼンチン	1	5.0
全体	134	3.3

滞在年数と日本語読解力自己申告

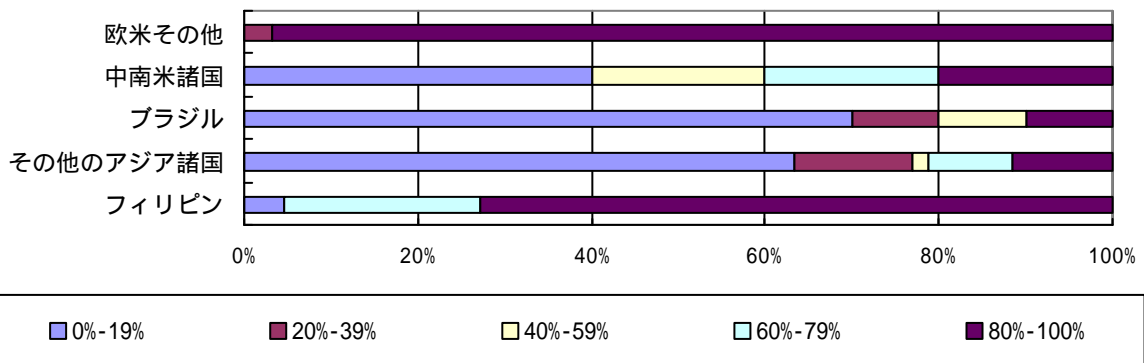
滞日年数	得点
1	2.4
2	2.9
3	3.1
4	2.8
5	3.3
6	3.1
7	2.0
8	3.0
9	4.8
10	3.6
11	3.0
12	3.5

滞日年数が長くなれば点数は多少高くなるが、滞日年に明らかに比例して上昇しているわけではない。若い時に来日して日本人に囲まれて暮らす人、中年以降に来日して同国人に囲まれて暮らす人、滞在は長いが永住の意思がない人など、人それぞれの環境によって日本語の上達度が全く異なるためであろう。実際、滞日20年でも半分程度しか理解できないと回答した中国籍の人がいた。

Q11 あなたはこのアンケートの英語版に使われている英語を読んで、全体の何パーセント(%)くらい理解することができますか。

0%-19% / 20%-39% / 40%-59% / 60%-79% / 80%-100%

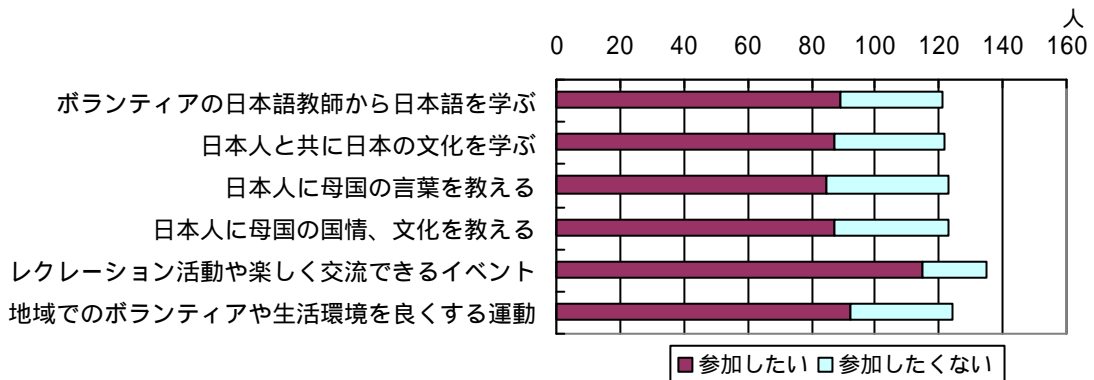
	0%-19%	20%-39%	40%-59%	60%-79%	80%-100%	計
フィリピン	1			5	16	22
その他のアジア諸国	33	7	1	5	6	52
ブラジル	7	1	1		1	10
中南米諸国	2	0	1	1	1	5
欧米その他	0	1	0	0	29	30



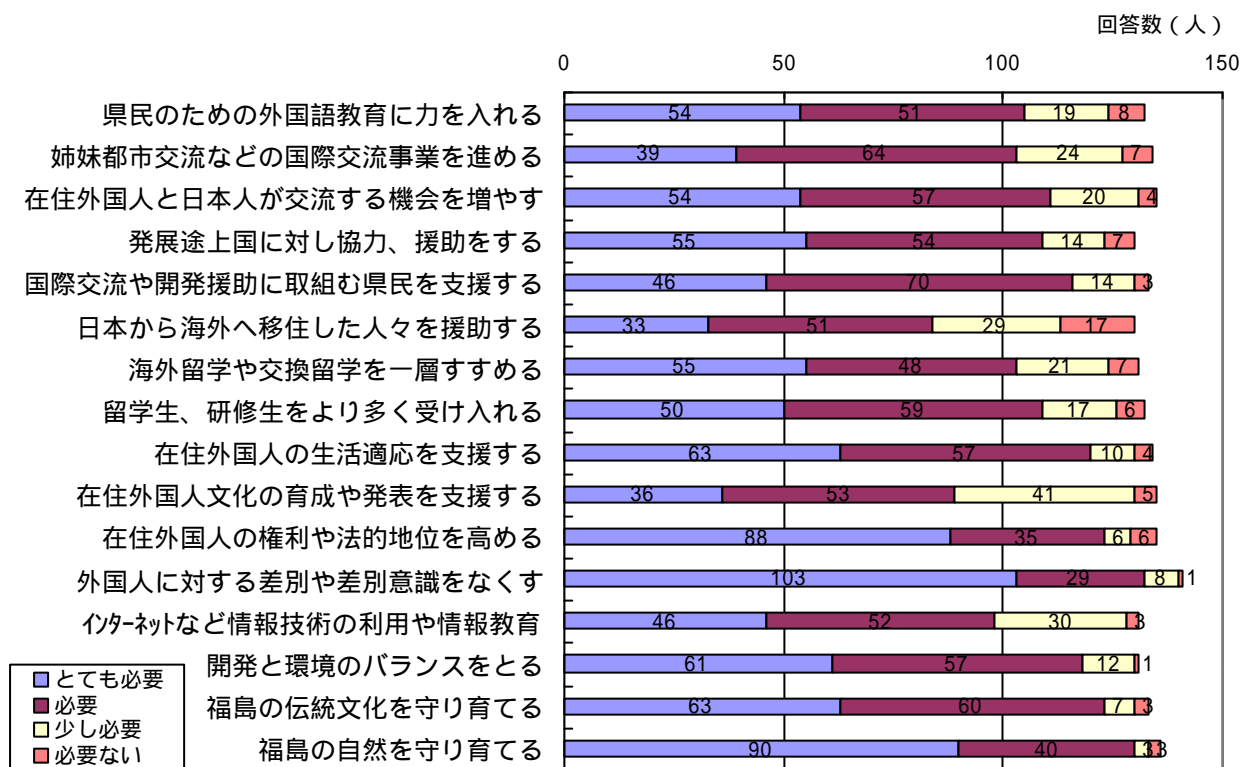
行政側では、ポルトガル語やタガログ語などの翻訳を作成することが容易ではないので、それらの代わりに英語の翻訳物で代用できるかどうかを知ることがこの質問の目的である。日本語の能力と同様に個人差が激しく、同じ国籍でも英語能力はバラバラであるが、一般的に言って、ブラジルやその他の中南米籍の人々に英語の翻訳物が役に立たないことはわかった。また、フィリピン籍の人の英語理解力は非常に高いが、タガログ語やビサヤ語しかわからない人は今回のアンケートに回答していないと考えられる（実際、日本語も英語もわからないというフィリピン出身者からの電話がいくつかあった。）ので、その分を割り引いて理解する必要がある。

Q5 一般の日本人との次のような交流事業があれば参加したいですか。をつけてください。

	参加したい	参加したくない
A) ボランティアの日本語教師から日本語を学ぶ	89	32
B) 日本人と共に日本の文化を学ぶ	87	35
C) 日本人に母国の言葉を教える	85	38
D) 日本人に母国の国情、文化を教える	87	36
E) レクリエーション活動や楽しく交流できるイベント	115	20
F) 地域でのボランティアや生活環境を良くする運動	92	32



Q6 グローバル時代における県の仕事として、次のことはどのくらい必要だと思いますか。



Q7 外国人であることを理由に差別を受けた経験はありますか。

国籍	ほとんどない	ときどきある	よくある	計	アンケートの回答者数	この質問への回答率
中国	13	16	4	33	37	89%
韓国朝鮮	9	4	5	18	24	75%
フィリピン	12	7	2	21	22	95%
ブラジル	6	3	1	10	11	91%
アメリカ	5	1		6	6	100%
イギリス	4	3		7	7	100%
総数	71	45	14	130	145	90%

韓国朝鮮、中国籍の人はこの質問への回答自体少なかった。いまさら何を聞くかということが。中国、韓国朝鮮籍の人は差別が多いと感じている。「よくある」と答えたのは主にアジア系であった。

（「よくある」または「ときどきある」と答えた方）それはどんな場合ですか。

- 店、企業等で質問をしてもきちんと受け答えしてもらえないことがよくある。お店の人などは面倒くさいと感じているのか、無視される。
- 職場でよくあるのは、とりわけ日本語をよくわからない外国人きちんと意見を聞かずに物事を決めたり、ミーティングから外されることだ。外国人が意見を言っても無視されることもある。ずいぶん勝手だと思う。指紋押捺とそれを常に携帯しなければならないのは不快、日本人はその必要がないのだから。
- 一般的には人々は丁寧で親切。しかし時々「外人」に会ってパニックになる人がいる。英語日本語を問わず外国人に質問されるととても早くしゃべるか、めんどくさそうに「あぁ!？」と言うだけ。こういう人に会うととても不快になるし、自分がよそ者だと感じる。
- どこの店でもおばさんは列に割り込む。一般的に年長の方は外国人と接するのに全く慣れていない。
- 外国人用のテーブル、コーナーはないといわれた(レストランで?)。外国人はこうだ、ああだという固定観念。「外人」という言葉。
- 特に公共の場所で。じろじろ見られる。日本語を知らないと思っている。
- 税金は日本国民として払っているのに、参政権などの権利はない。国体に参加するチャンスがあったが、国籍を変えなければならないと言われた。もちろん断った。
- 人の多く出入りする場所等で、外国人として奇異な視線を感じる。行政機関等では対応が不親切な場合が多い。
- 義理の家族が自分とその子供のことを家族の一員にしたがらない。仕事では、不公平。いろいろありすぎて、このスペースではすべて書ききれない。
- 日本語がわからないので。
- 日本語知識（漢字の読み書き）が不十分なので自分にあった仕事が見つからない、日本人の同僚にとけ込むのが難しい。
- 日本の派遣会社が外国人を受け入れなかったケースが多くありました。
- 学生であるのに電車飛行機などで学割切符がもらえなかった。電車の駅で問い合わせをしたとき。いくつかの日本人の方が外国人と話すことに関心を示さない上に他の国のことを知る関心も示さない。つまり、自分の世界に生きている。自分自身のために。
- 日本人と結婚しているため何か問題を解決しなければならないときに彼がポルトガル語を話せないにもかかわらず一緒に言ってくれます。私は 10%しか日本語を話せない。私は主婦であるために日本人の方と接する機会が少ないので差別は感じません
- 友人が小学校の時にいじめを受けた
- 学校などでの先生による差別。
- 仕事を探す場合、給料面で。又は仕事自体なかなか見つからない。
- ビザのこととか、日本人と一緒にサービスを受ける時
- 日本人より時給が安い。
- 仕事を見つける時、外国人はいらないと言われた。
- 外国人は日本人と同じように税金をだすが、日本人の子供に対するサービスは外国人のこ

どもに提供しない。

- 小学校から大学まで、外国人とわかってから、それまでの付き合い方が変わったり、仲間からはずれる。
- 登録証の携帯義務。

Q8 日本には在住外国人に対して差別的な法律や制度があると思いますか。

ある	ない
48人	63人

(「ある」と答えた方)それは何ですか。

- 日本国籍をとるのが非常に困難。外国人に対する差別に対して何の罰則も無い。
- 税金は払わなければならないのに投票できない。
- 外国人登録カード
- 年金制度。滞在 25 年に満たずに離日すれば全くと言っていいほど受け取れない。将来戻ってきたとしても制度に加入することもできないし、支払ってきた金額も消滅する。外国人に対する仕事の保障無し。外国人に指紋押捺させ、その携帯を義務とするのは不愉快だ。
- 外国へ行く時、永住権があるのに入国許可(有料)が必要なこと。
- 「エイリアンカード(外国人登録証明書)」「ひどい名前」の提示をよく求められ、自分が外国人であることを再認識させられるようだ。日本にいて本当にアットホームに感じたことはない。年寄りのおばあさんが私を見る目を想像してみてください。
- ボーナスがない。すべてに保証人を要求される。
- 永住外国人に選挙権がない。
- ビザ! 本当に不公平。私は約 12 年ここに住み、悪いことは何もしていない。今は私一人で、父親のサポートなしで 2 人の子供を育てている。一年おきにビザを更新しなければならないのには本当にうんざり。
- 日本に住む外国人は日本の法律についてよく知らない。守るべき法律について教えてくれる人がいたらいいと思う。
- 日本は二重国籍を認めない。
- 外国人登録カードを取る時、指紋の押捺がある。外国人は安定収入があっても、銀行から借金できない。去年の地域振興券は日本人があったが、外国人はなかった。

Q9 あなたは次のような手段で県や市町村の運営に参加したいですか。希望しているものについていくつかをつけてください。

- a) 地方自治への参政権を得たい。
- b) 地方公務員として働きたい。
- c) 行政モニターや審議会の委員として行政に対して意見を述べる機会があれば、参加したい。

	a) 地方自治への参政権を得たい。	b) 地方公務員として働きたい。	c) 行政モニターや審議会の委員として行政に対して意見を述べる機会があれば、参加したい。
中国	38%	41%	35%
韓国朝鮮	50%	21%	17%
フィリピン	32%	41%	27%
ブラジル	45%	73%	27%
英米加豪愛	25%	17%	54%

韓国は日韓間の外交懸案でもある参政権に関心が高い。欧米はモニターや審議委員に関心が高い。ブラジルは公務員として働くことへの希望が7割を超えた。

Q5 行政サービスのうち、外国語の案内がほしいと思うものがあれば具体的に書いてください（たとえば、学校のお知らせ、予防接種のお知らせ、道路や公共の場所の標識など）。

- 外国人向けの日本語教室のお知らせ、医療情報（例えば日本語の医療用語、表現集のようなもの）、地域の買い物情報、地域のレクリエーション・スポーツ施設情報。
- 列車、ローカル・市内バスの時刻表、JRの割引きっぷの情報、福島のトラベルガイドや他の情報：国立公園、ハイキングコース、温泉、文化、史跡など
- 医療情報、ごみの始末やリサイクルの方法
- 学校、ボランティア活動のお知らせ
- 学校、医療、電話に関する情報、交通標識、緊急時（火災、地震等）はどうしたらいいか。
- 県・市で発行する年間予定表等、日常生活に必要な広報などについては、数カ国語に翻訳した文書を簡単に閲覧できるように掲示してほしい。
- 予防接種
- 銀行情報等。例えば入金・引出の用紙、保険加入申し込み、クレジットカード申込書など
- 在住のビザ取得者の権利と特典。公的保険、年金に関する情報
- 各病院の場所、時間、サービス。子供の学校のこと。
- 外国人の為の労働法、所得申告
- 留学生受け入れ学校の情報。申請手続き。留学生卒業後の日本での生活情報。
- 催しや地域のイベント

Q12 福島県に住んでみて気がついたことや、この機会に言いたいことがあれば書いてください。

- 素晴らしい伝統や工芸品を保護し推進するためにもっと努力すべき。例えば定期的かつ十分に宣伝した上で陶器、木彫りなど工芸作りの実演等をすれば多くの人を呼べるし、県外海外からも観光客が来るだろう。そうすれば伝統を保護することになるし、何よりこういうことは県のお仕事でしょう。福島は四季を通じて自然が美しくアウトドアには最高。絶対観光マップに載るべき。でも今のところたいのみの観光本（少なくとも英語版）には何もか書かれていないか、せいぜいほんの少しの紹介だけ。農業県として大きな可能性を持っているにもかかわらず、日本の他の地域と同様農業は衰退しつつある。有機生産物基準を設

けたり、持続可能な農業の方法を取り入れ、有機栽培による食糧の需要の高まりを利用するべく、県は農家を支援したらいいいのでは。そして地球を救おうではありませんか。

- 福島は美しい所だが、自然や文化を保護するために対策が必要。
- 外国人に関するインフォメーション。たとえば、いろいろなサークル(English,AdvancedJapanese,Ikebana など)特に、外国映画、演奏、いろいろなイベントのインフォメーション。
- 国際交流関連行事や日本語教室は大半が県内でも都市部で行われている。「町」レベルの方がむしろ、在住の外国人には必要だと思う。なぜなら都市部の住人より、田舎独特の考え方や諸々の違いに対するとまどいによる苦労が多いからだ。
- 都市に比べて交通が不便である。近くに日本語教室があれば良いと思う。
- 英語での情報をもっと送ってください。(クラブ、国際的なイベント、)
- ここでの生活は本当に良い。いくつか不満も述べたが、他に私が住んだ国々に比べたらずっと少ない。
- 日本はもっと国際化されなければ。この国は外国人に対して制限がありすぎる。「外国人」という言葉さえ存在すべきでない。黒人だろうと、白人だろうと、黄色人種だろうとインディアンだろうと皆同じ人間ではないか。人種などではなく、人となりでその人を受け入れるべきだ。
- 税金が高い。物価が高い。このアンケートの日本語の文章・言葉が難しすぎるので、今後は検討してほしい。
- たくさんの日本の文化を見たり、体験できたりした。叔父ファミリーや近所の人、日本の友達等、みんなに感謝している。みんな親切で理解のある人達。また、自然環境がよく、心地よい場所。
- 私の印象では福島は平和できれいな所。人も親切。特にバスの待合所で会う人達。(子供が幼稚園に通っているのでバスを待つ間)
- 福島県は大変住み易い。特に気候がよい。余暇の過ごし方に選択肢がない。私は活動的なタイプなので残念だが、いろいろな人と交流するレクリエーション、活動機会がないので暇だ。でも住み易さは評価できる。
- 英日両国語で情報を提供すべき。無料の日本語教室の提供。カナルリングに力を入れてほしい、しかも英語で利用出来るようにして欲しい。図書館にはもっと英語の本を。学校では英語教育に力を入れてほしい、将来生かせるように。
- 私の印象では開発の進んでない所もあるようだ、整備されてない道路もあるし。それ以外は、安全な土地柄だし人々は礼儀正しい。
- 四季がはっきりしていて、たいへんすばらしい。隣近所と友達になるのは難しい。日本人の友達の友達と友達になることは難しい。つまり、サークルとサークルがまざりあわない。日本人の事とか日本の文化の事を知るために日本に1年間過ごす価値がある。会津大学は新しくそして研究のためのテクノロジーを提供してくれる。投資する価値がある。コミュニケーションをとることは大変重要なことです。だから、外国人は日本語を覚える努力をし、そして日本人は英語を覚えるようにしたらいいと思います。



- 外国人が少ない小さな町に住んでいるため、大変良く迎えられた。中学校でも、小学校でも、わたしたちの子ども達が唯一の外国人なので大変良く扱われています。公共の役所も同じです。
- 福島は活気と魅力がない。すごく寂しいところです。もっと外部の力を借りて、経済を発展させるべきだ。
- 日本人と一緒に日本語を勉強し、日本の文化を知りたい。娯楽活動があったらいい。
- はじめて日本に来た外国人のために日本語教室を設けてほしい。
- 福島県があまり外国人に知られてないのが悲しい。もっと国際の宣伝に力を入れてほしい。
- 道路工事のしすぎ。6歳未満の子供に対してお金のかからない制度を作してほしい。24時間制の子供専門の病院がほしい。東京のような大手のデパートがほしい。
- 法律や制度としての差別は基本的には改善されてきていると思う。人々の意識に根づいて感情は、いかんともしがたい。特に、白人とそれ以外の人達に対する雰囲気の違いをうめるには、まだまだ長い時間が必要な気がする。
- 友人に聞いたが、小学校1年生の子供が学校で「外国人！」といじめられているという。こんな時代錯誤なことがまだおきていることを聞いて、信じられないと思った。担任の先生に言っても、親に言っても相手にしてくれない。学校も親も情けないと思った。常に相手の立場に立って、思いやりをもってほしいと思う。

## アンケートから見えてきたこと

福島県国際課

### 言語の壁と低い回収率

今回のアンケートでは、市町村の協力を得て、外国人登録者の中から無作為に対象者を選ぶことができたが、アンケートを日、英、中、韓、葡の5言語でしか書いてなかったため、スペイン語、タガログ語などの言語を母語にもつ在住外国人の意見を汲み取ることができなかった。結果の分析の際はこの点を考慮しなければならない。

### 労働者は把握困難

県南地区の南米籍在住外国人の多くは日系人労働者で、会社が人材派遣会社を通じて受入れている。彼らは、一般社会との接点が少なく、日本人側からは見えにくい存在である。今回のアンケートでもブラジル人の回答者は少なく、見えにくい印象がある。

### 日本語教室への強い要望

行政の外国人支援策の中では、日本語教室への要望が非常に多い。現在進めている日本語教室の支援を一層推進する必要がある。

### 差別意識の解消

国際施策の中では、外国人への差別の解消を図る施策を求める声が圧倒的に大きい。外国人への差別、偏見、固定観念などをなくし、どんな人でも一人の人として見ることが当たり前である社会をつくるべく、県として力を入れる必要がある。

### その他

- 在住外国人にアクセスするには、同じ言語グループを経由することが有効である。ブラジル籍は職場経由も有効。
- 地域の国際交流団体、日本語を学ぶグループなどに所属する率は意外に高い。これらのグループを経由して、母国人グループへ情報を流すことで、在住外国人への情報を円滑に伝えることができるかもしれない。
- ブラジル籍の人へのメッセージは、英語よりルビつきの日本語の方が伝わりやすい。
- 行政・公共サービスの多言語化の需要が高いことがわかった。
- 保険、年金などの制度がわからないという声も多かった。(ただ、これらは日本語で書かれていてもわかりにくいものであり、日本語の問題でもある。)
- 医療の面の不安も高い。現在、多言語医療機関リストの作成を県協会がすすめているが、その成果をいかにして在住外国人に伝えるかが肝心である。